

差別のない明るい社会を

人権について、みんなで考えてみましょう

～北埼玉地区3市における人権に関する意識調査報告書から～

正しく理解することが問題解決につながります



「部落差別なんて、もうないよ・・・」 そう考えている人も多いかもしれません。しかし、本当に部落差別はなくなったのでしょうか。

同和問題とは、ある一部の地域に住んでいることや、その出身であるということだけで、理不尽な差別を受けるという、日本固有の人権問題です。

日本社会の歴史的過程の中で形づくられた身分差別により、現在でも間違った認識や偏見を原因とする、就職や結婚差別が後を絶ちません。また、「そっとしておけばいい」という考え方が一部にあります。それで良いのでしょうか。

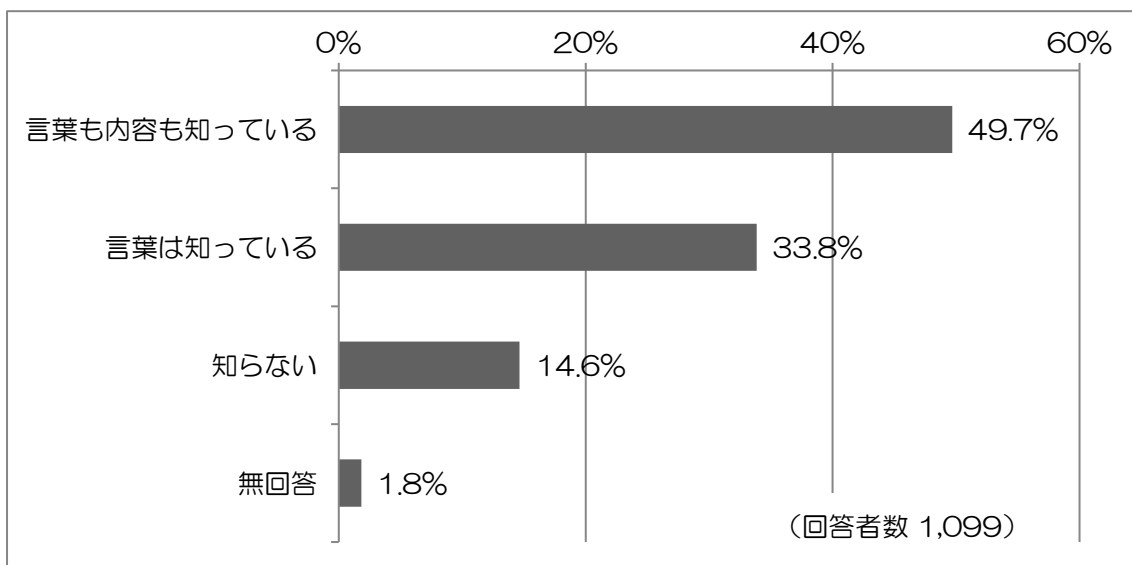
明治4年に身分制度が廃止されて140年以上経っても、差別がなくなったとは言えません。「寝た子を起こすな」の考え方では、問題解決にならないばかりか、正しい知識を得る機会を失い、誤った知識や偏見など差別的な情報だけが伝えられ、結果的に差別を助長してしまう原因にもなります。

私たち一人ひとりが同和問題を正しく理解し、他人ごとではなく、人権を尊重することの大切さを理解し、行動していくことが必要ではないでしょうか。

問 あなたは、同和問題について知っていますか。(〇は1つ)

【回答】

同和問題(部落差別)については、「言葉も内容も知っている」が49.7%で最も高く、次いで「言葉は知っている」が33.8%、「知らない」が14.6%、「知らない」が14.6%、「無回答」が1.8%となっています。



同和問題（部落差別）に対する認識について

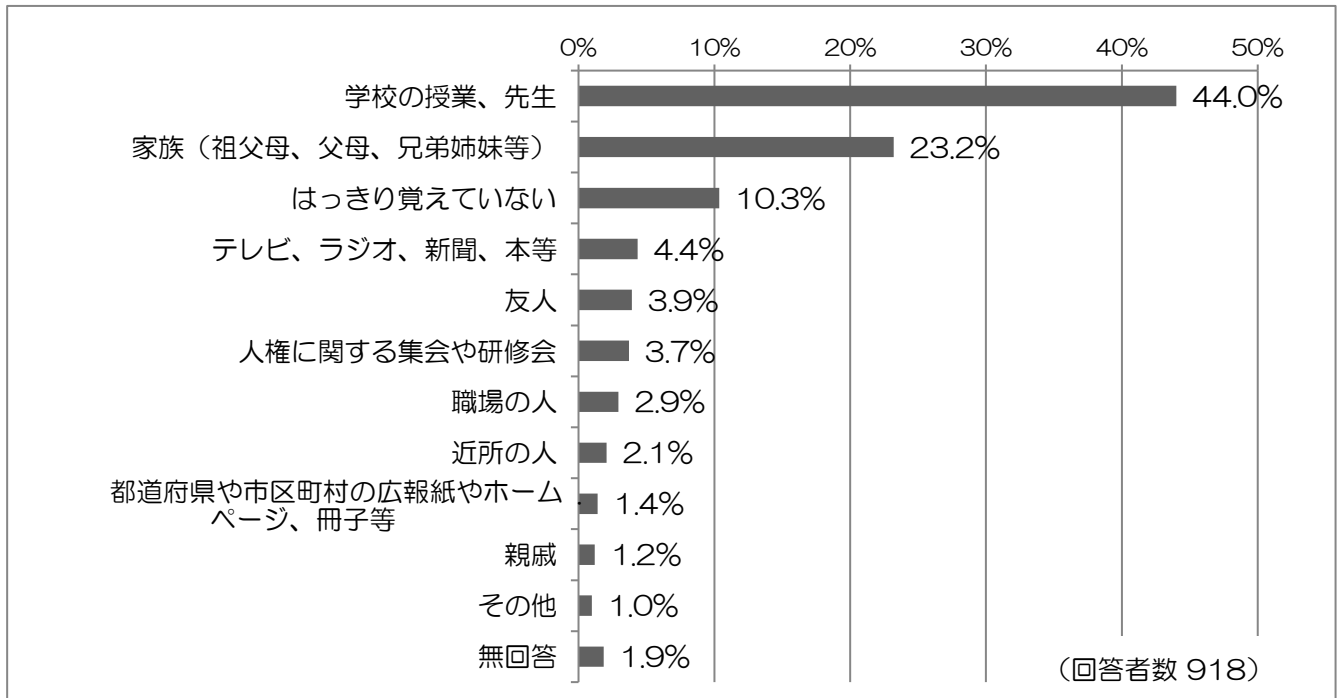


問 あなたが同和問題について初めて知ったのは、誰（なに）からですか。（〇は1つ）

※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【回答】

同和問題を初めて知ったきっかけは、「学校の授業、先生」が44.0%で最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）」が23.2%、「はっきり覚えていない」が10.3%となっています。

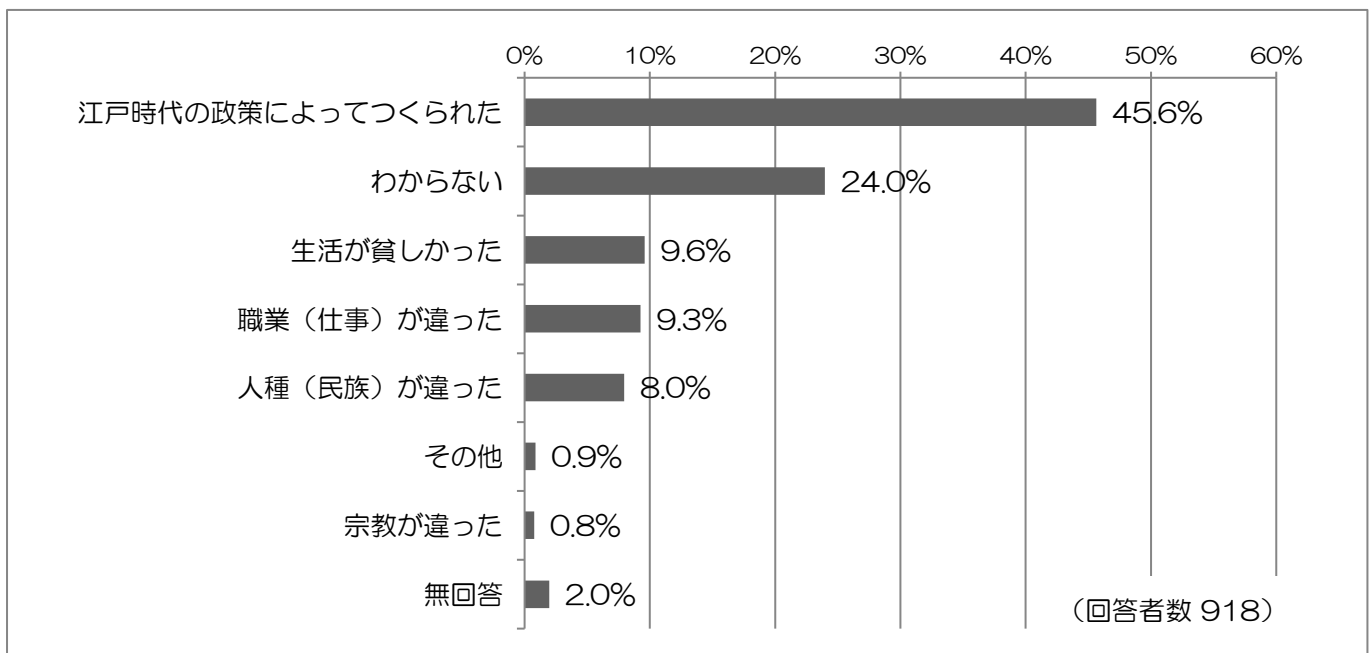


問 あなたは同和問題の起こりについて、どのように受けとめていますか。（〇は1つ）

※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【回答】

同和問題の起こりについての受けとめは、「江戸時代の政策によってつくられた」が45.6%で最も高く、次いで「わからない」が24.0%、「生活が貧しかった」が9.6%となっています。

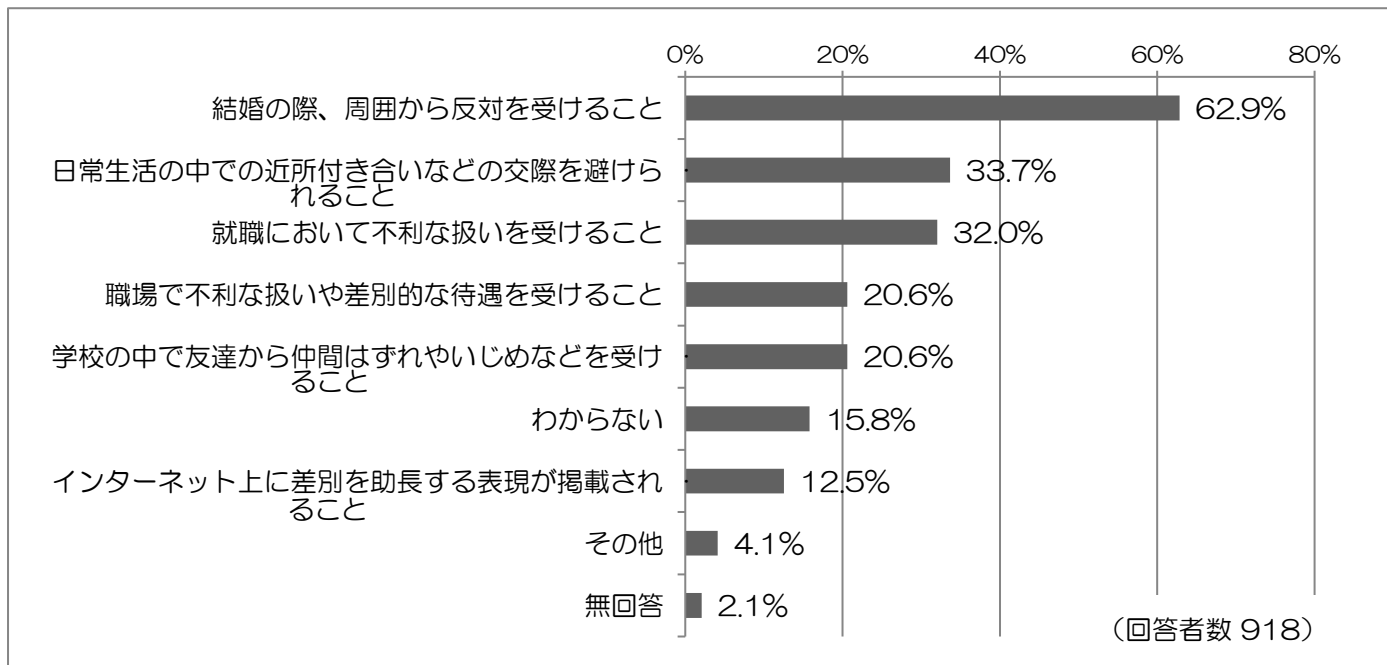


問 あなたは、同和問題に関する事柄で、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【回答】

同和問題に関する事柄で、特に問題があると思うのは、「結婚の際、周囲から反対を受けること」が62.9%で最も高く、次いで「日常生活の中での近所付き合いなどの交際を避けられること」が33.7%、「就職において不利な扱いを受けること」が32.0%となっています。



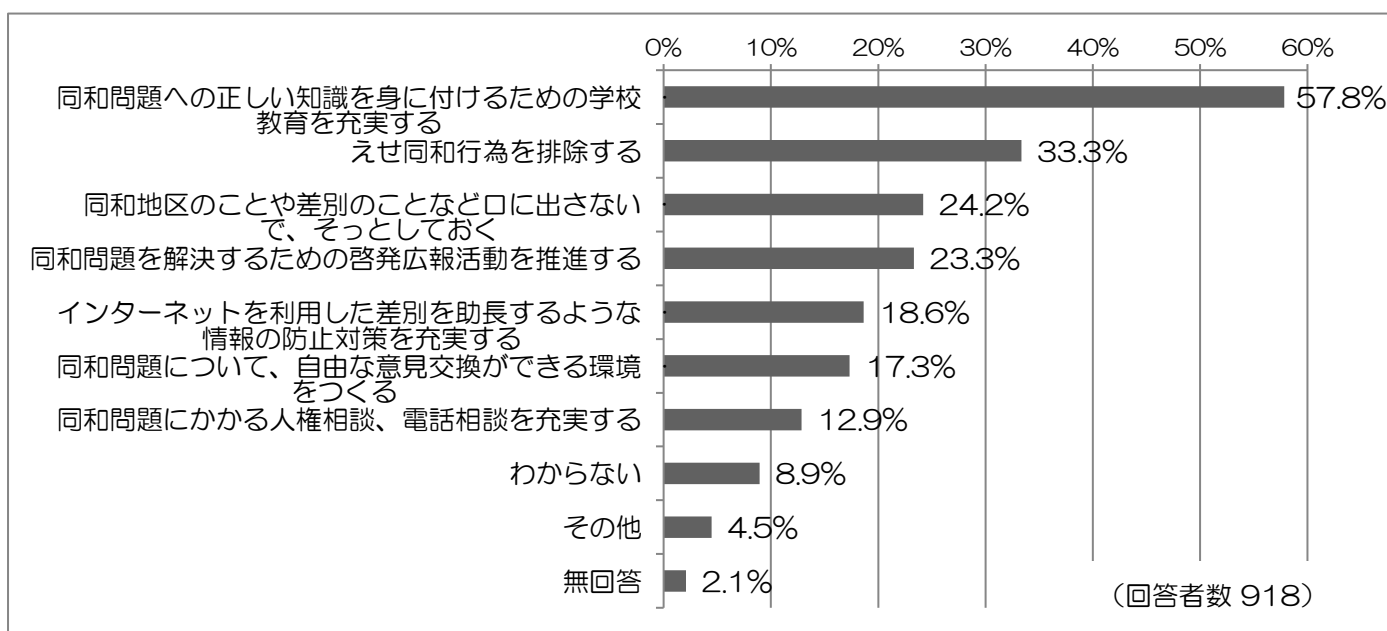
問 あなたは、同和問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇は3つまで) ※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く



【回答】

同和問題を解決するために必要だと思うことは、「同和問題への正しい知識を身に付けるための学校教育を充実する」が57.8%で最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」が33.3%、「同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく」が24.2%となっています。



土地差別問題及び身元調査に関する調査結果について

問 あなたは、住宅や生活環境を選ぶ際に、同和地区であった場合、避けることがありますか。(〇は1つ) ※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【全体】

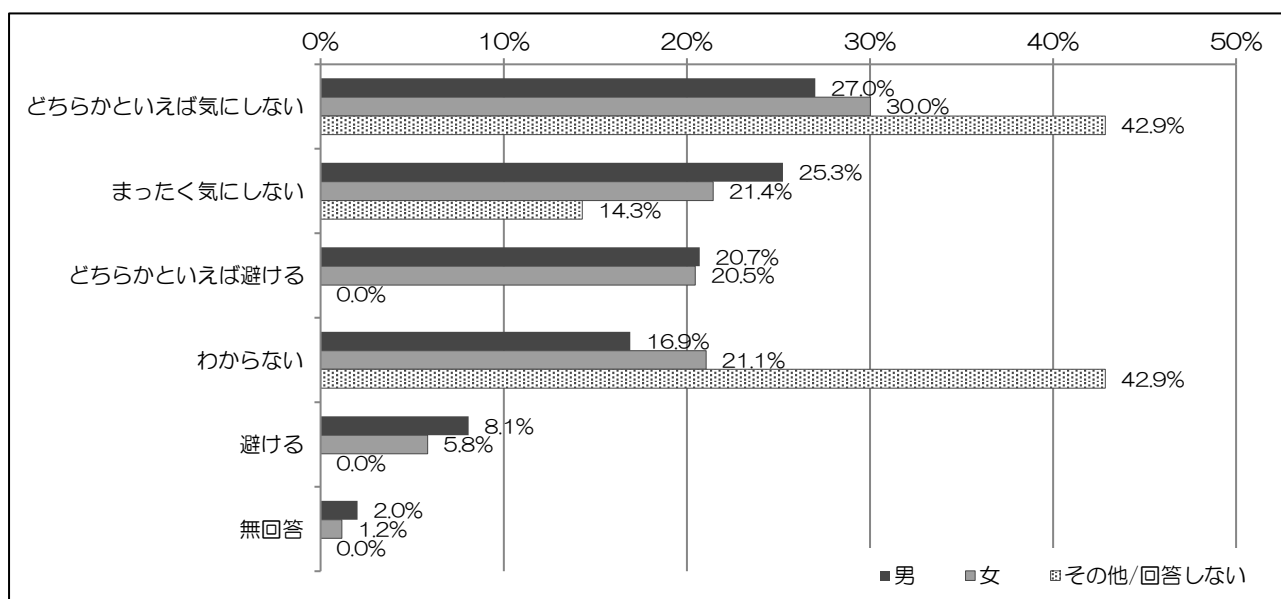
「どちらかといえば気にしない」が28.9%で最も高く、次いで「まったく気にしない」が23.1%、「どちらかといえば避ける」が20.4%となっています。

	回答数	構成比
	265	28.9%
	212	23.1%
	187	20.4%
	178	19.4%
	62	6.8%
	14	1.5%
	918	100.0%



【性別】

男性と女性は「どちらかといえば気にしない」が、その他/回答しないと答えた方は「どちらかといえば気にしない」と「わからない」が同比率で最も高くなっています。



【年代別】

18～29歳と30歳代は「まったく気にしない」が最も高くなっています。40歳代と60歳以上は「どちらかといえば気にしない」が、50歳代は「どちらかといえば避ける」が最も高くなっています。

	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
どちらかといえば気にしない	30.7%	27.7%	30.1%	22.7%	32.5%
まったく気にしない	32.0%	31.4%	19.4%	20.8%	20.3%
どちらかといえば避ける	12.0%	14.5%	21.0%	24.2%	22.7%
わからない	20.0%	18.9%	21.0%	21.7%	16.8%
避ける	5.3%	6.3%	7.0%	10.6%	4.5%
無回答	0.0%	1.3%	1.6%	0.0%	3.1%
回答者数(人)	75	159	186	207	286

問 あなたは、結婚や就職時の身元調査について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

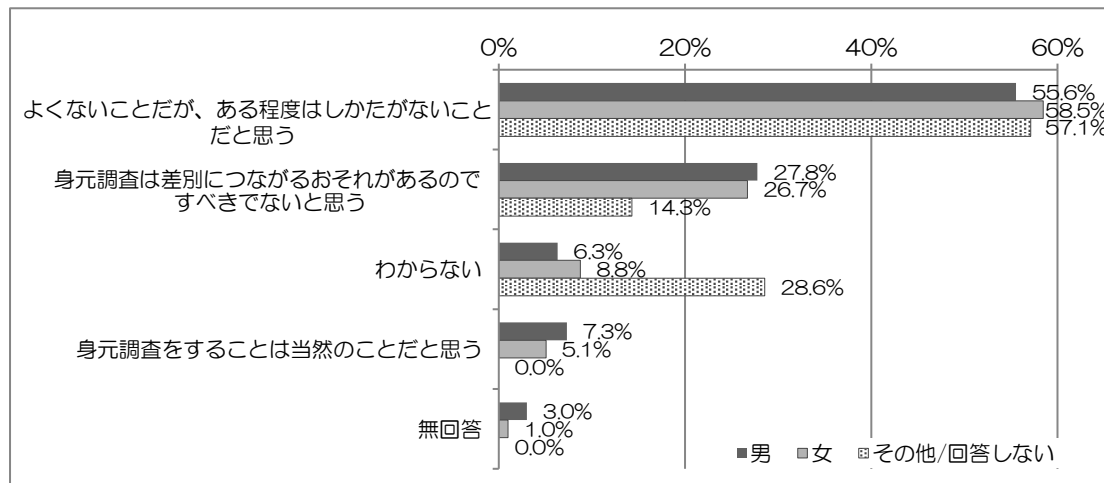
【全体】

「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」が27.0%となっています。その一方で、「よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う」が57.3%で最も高く、「身元調査をすることは当然のことだと思う」も6.0%となっています。

	回答数	構成比
よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う	526	57.3%
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う	248	27.0%
わからない	72	7.8%
身元調査をすることは当然のことだと思う	55	6.0%
無回答	17	1.9%
計	918	100.0%

【性別】

いずれにおいても「よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う」が55%を超えて最も高く、次いで男性と女性は「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」、その他/回答しないと答えた方は「わからない」となっています。



【年代別】

各年代において「よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う」が最も高くなっています。「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」では、18~29歳が他の年代に比べ最も高くなっています。

	18~29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う	53.3%	64.8%	59.1%	56.0%	53.8%
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う	30.7%	27.0%	25.8%	25.1%	28.3%
わからない	6.7%	3.8%	9.1%	11.1%	7.0%
身元調査をすることは当然のことだと思う	8.0%	3.8%	4.8%	6.8%	7.0%
無回答	1.3%	0.6%	1.1%	1.0%	3.8%
回答者数 (人)	75	159	186	207	286

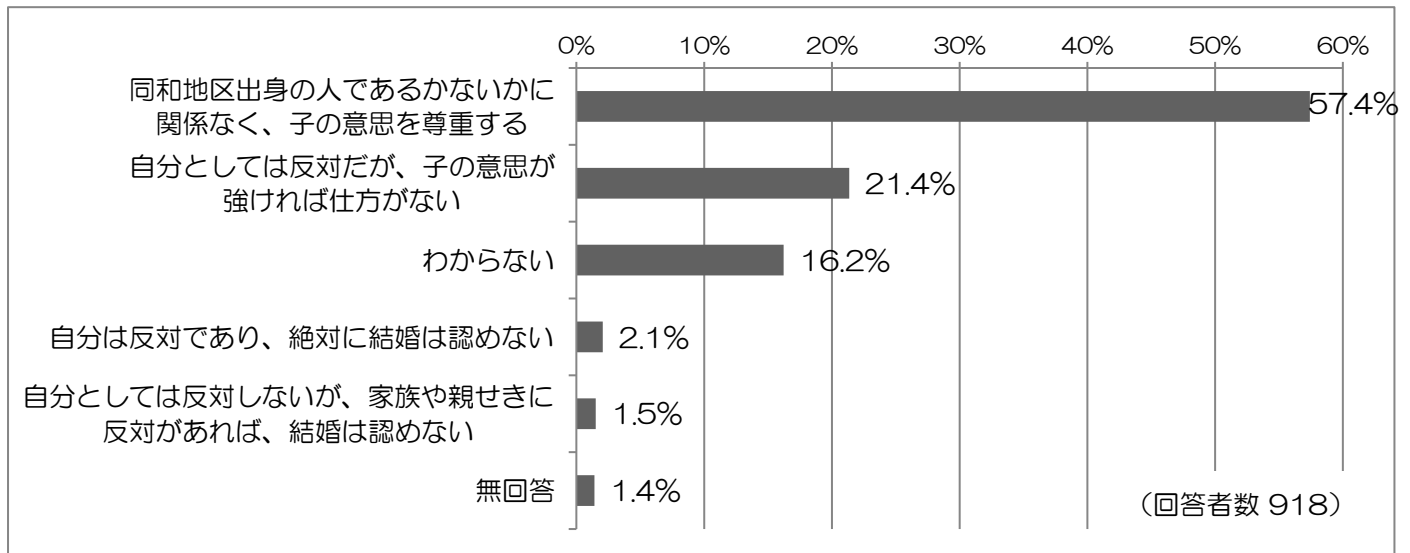


結婚について

問 あなたのお子さんが同和地区出身の人と結婚しようとした場合、あなたはどのように対応しますか。(〇は1つ) ※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【回答】

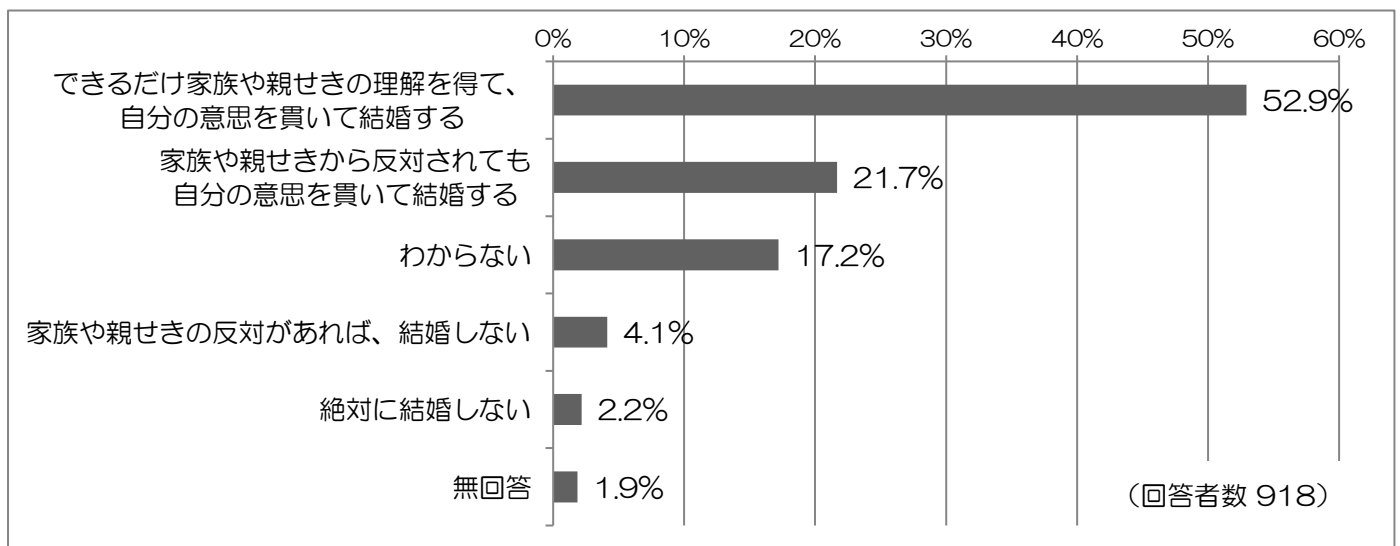
「同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」が57.4%で最も高く、次いで「自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない」が21.4%となっています。



問 あなたが結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であるとわかった場合、あなたはどうされますか。(〇は1つ) ※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【回答】

「できるだけ家族や親せきの理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」が52.9%で最も高く、次いで、「家族や親せきから反対されても自分の意思を貫いて結婚する」が21.7%となっています。

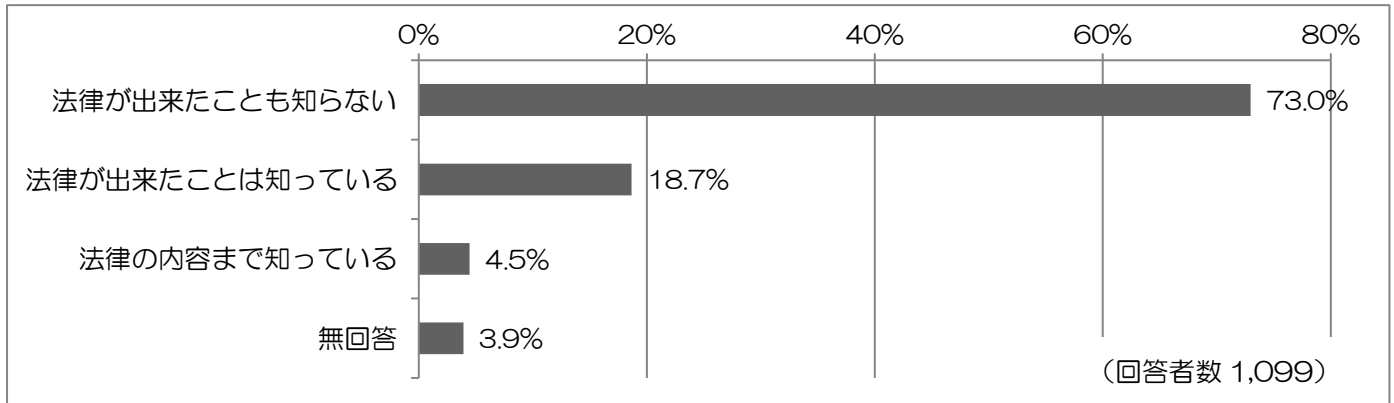


「部落差別の解消の推進に関する法律」について

問 平成28年12月に、「部落差別の解消の推進に関する法律」（※下記参照）が施行されました。あなたは、この法律をご存じですか。（〇は1つ）

【回答】

「部落差別の解消の推進に関する法律」については、「法律が出来たことも知らない」が73.0%で最も高く、次いで「法律が出来たことは知っている」が18.7%となっています。



「部落差別の解消の推進に関する法律」とは・・・

現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、部落差別のない社会を実現することを目的としています。この法律では、部落差別は許されないものであるとの認識のもと、国や地方公共団体の責務や相談体制の充実、教育及び啓発、部落差別の実態に係る調査などについて規定されています。

まとめ

「同和問題に関する事柄で、特に問題があると思うのはどのようなことですか。」の回答では、「結婚の際、周囲から反対を受けること」が62.9%で最も高い割合を示しています。一方で、「あなたのお子さんが同和地区出身の人と結婚しようとした場合、あなたはどのように対応しますか。」の回答では、「同和地区出身の人であるかに関係なく、子の意思を尊重する」が57.4%で最も高い割合を示しています。

また、「住宅や生活環境を選ぶ際に同和地区であった場合、避けることがありますか。」の回答では、「まったく気にしない」、「どちらかといえば気にしない」を合わせると52.0%、「どちらかといえば避ける」、「避ける」を合わせると27.2%と、気にしない方のほうが多くなっているものの、まだ気にする方も3割近くいるという結果になっています。同様に「結婚や就職時の身元調査について、どのようにお考えですか。」の回答では、「よくないことだが、ある程度はしかたがない」、「すべきではない」の合計で84.3%と多くの方が身元調査について問題を感じている反面、「よくないことだが、ある程度はしかたがない」、「身元調査をすることは当然である」の合計で63.3%の方が身元調査について肯定的な回答をしています。

以上のことから、心理的差別については解消する方向で進んでいるものの、依然として同和問題に対する差別意識や偏見が存在しているという調査結果となっています。

このような状況を踏まえ、今後も差別の解消に向け、私たち一人ひとりが同和問題について理解を深め、人権意識や人権感覚を身に付けることが大切です。

～北埼玉地区3市における人権に関する意識調査～

1 調査目的

北埼玉地区3市の人権に関する住民の意識の現状を把握し、その結果を今後の北埼玉地区全体での人権意識の向上、部落差別意識の解消等の人権行政の推進に必要な基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の概要

- (1) 調査地域 行田市・加須市・羽生市
- (2) 調査対象 各市内に在住する満18歳以上の男女
(階層は、18～29歳、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上)
- (3) 標本数 各市1,000人 計3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの層化無作為抽出(令和元年10月1日現在)
※階層ごとの標本数及び男女の割合については均等とする
※外国人を含む
- (5) 調査期間 令和元年11月5日(火)～11月22日(金) ※市によって調査期間が異なる

3 調査項目

- (1) 属性(性別、年代)
- (2) 人権全般に対する意識について
- (3) 女性の人権について
- (4) 子どもの人権について
- (5) 高齢者の人権について
- (6) 障がいのある人の人権について
- (7) 同和問題(部落差別)について
- (8) 外国人の人権について
- (9) HIV感染者・ハンセン病患者等の人権について
- (10) インターネットによる人権侵害について
- (11) 災害時における人権への配慮について
- (12) LGBTなど性的少数者の人権について
- (13) 人権問題についての意見

4 回収結果

- (1) 調査票配布人数 3,000人
- (2) 回答者数 1,099人
- (3) 回答率 36.6%

<各市のキャラクター>



行田市



加須市



羽生市

5 回答者の基本属性【性別・年代別】

性別無回答 4

	男		女		その他/回答しない	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
18～29歳	55	11.9%	85	13.7%	1	8.3%
30歳代	73	15.8%	127	20.5%	2	16.7%
40歳代	84	18.1%	122	19.7%	3	25.0%
50歳代	97	21.0%	127	20.5%	4	33.3%
60歳以上	151	32.6%	157	25.3%	1	8.3%
無回答	3	0.6%	2	0.3%	1	8.3%
計	463	100.0%	620	100.0%	12	100.0%